

指定管理者が行う公の施設の管理状況報告(令和4年度分)

＜県の評価等＞

施設所管部名： 農林水産部

1 指定管理者の概要等

施設の名称及び所在	三重びよクエの森(三重県民の森) (三重郡菰野町大字千草字西貝石 7181-3)
指定管理者の名称等	NPO法人 ECCOM 理事長 森 豊(三重郡菰野町千草 3927-1)
指定の期間	令和3年4月1日～令和8年3月31日
指定管理者が行う管理業務の内容	1 県民の森の森林、植物等の管理に関する業務 2 県民の森の施設、設備の維持管理及び修繕に関する業務 3 県民の森の施設、設備の利用に関する業務 4 自然体験型イベントの実施に関する業務 5 ホームページ等による県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務 6 生物多様性の保全に配慮した取組に関する業務 7 その他県民の森の管理上必要と認める業務

2 施設設置者としての県の評価

評価の項目	指定管理者の自己評価		県の評価		コメント
	R3	R4	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B			普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めている。 また、外来植物の除去や間伐を行うなど、森林環境の適正な管理に努めている。
2 施設の利用状況	A	A			年間利用者数の目標達成率は、A評価基準を上回る 137.7%(183,139人)となり、過去最高の利用者数を更新し評価できる。
3 成果目標及びその実績	A	A			施設満足度(目標 80%に対し 89.6%)、自然体験型イベントの満足度(目標 92%に対し 96.2%)ともに目標を達成した。

※「評価の項目」の県の評価：
 「+」(プラス) → 指定管理者の自己評価に比べて高く評価する。
 「-」(マイナス) → 指定管理者の自己評価に比べて低く評価する。
 「 」(空白) → 指定管理者の自己評価と概ね同じ評価とする。

総括的な評価	<ol style="list-style-type: none"> ① 成果目標については、年間の施設利用者数、施設利用者の満足度、自然体験型イベント参加者の満足度の全ての指標で目標を達成している。 ② 森林、植栽木、芝生等の植物管理を適正に実施し、良好な景観の維持に努めている。利用施設の保守点検、日常点検、清掃を適正に実施しており、利用者が安全で快適に利用できる環境を整えている。 ③ 公園利用者のために、インターネットによる広報や利用受付を行い、イベント情報を中心とするメールマガジンを希望者へ配信するなど情報発信を積極的に行っている。 ④ イベントについては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底したうえで、観察会等の自然体験型イベントやものづくり、展示会等も含めて、88回(このうち自然体験型イベントは83回)開催しており、自然体験型イベント参加者の満足度は96.2%と高く、積極的に自然とふれあう場を提供している。 ⑤ 「みえ森林教育ステーション」では、安全・安心な利用に向けた運営に努めている。
---------------	---

- | | |
|--|--|
| | <p>⑥ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護や外来生物の駆除等の取組を行っており、生物多様性の確保に努めている。また、桑名高校、四日市西高校が主導するフクロウ保護プロジェクトにも引き続き協力している。</p> <p>⑦ 業務執行体制については、事務分担・責任の所在を明確にするとともに、職員を三重県民の森管理事務所に常勤として4名、非常勤として3名配置している。また、危機管理に関しても、マニュアルを作成し、自然災害や公園内での事故対応及び報告体制を平日・休日ともに整備し、適切に対応している。</p> <p>⑧ 利用者のニーズにあった公園管理を適切に実施したことにより、令和4年度においても全ての目標を達成し、森林、環境学習のための利用者の増加や、より良いサービスの提供につながっている。今後も引き続き、利用者の満足度向上につながる新たなサービスの提供に取り組まれない。</p> |
|--|--|

<指定管理者の評価・報告書(令和4年度分)>

指定管理者の名称: NPO法人 ECCOM

1 管理業務の実施状況及び利用状況

(1) 管理業務の実施状況

① 三重県民の森管理事業の実施に関する業務

誰もが日常から気持ちよく来園できるよう、植物管理、施設管理をはじめとした園内管理を徹底するとともに、「三重県民の森」の持つ自然環境を最大限に活用したイベントを実施することにより、公園のPR並びに来園者の増加に努め、以下のような事業を行った。

ア) 県民の森の施設及び設備の利用に関する業務

- ・園内各施設の団体利用に関しては、窓口での利用申請受付のほか、インターネットによる広報、受付を行い、事前に施設の情報提供や利用に係るノウハウの提供を行った。また来園者の要望を受け、職員が自然観察ガイドや自然体験教室を実施するなど、利用者へのサービスに努めた。
- ・感染症対策として、ウェブサイトや園内の掲示などで新しい生活様式に則った利用を啓発するとともに、園内の利用の多い場所にアルコールを設置し、手指の消毒を励行した。また利用の制限などについて、利用者に混乱が起きないように、その都度分かりやすく案内できるよう掲示や広報・案内等を行った。
- ・菟野町教育委員会へは、毎週3回、子供たちへの情操教育の場として園内を提供した。また、「森の風ようちえん」との共催で、2,3歳児とその親を対象とする野外保育事業「小さな森のようちえん」を毎週1回、園内を含むフィールドにて実施した。
- ・「みえ森林教育ステーション」では、小さな子を持つ家族でも、安全・安心に利用できるよう利用者数に制限を設けるなど、適切な運営に努めた。また従来の展示の鑑賞を目的とした利用者に混乱がないよう、広報、案内に努めた。

イ) 自然体験型のイベントの実施に関する業務

- ・感染症対策を徹底した上で、88回のイベント(うち自然体験型イベントは83回)を実施した。また、イベント参加者の満足度は全イベント、自然体験型イベントとともに96.2%となり、昨年度とほぼ同水準となった。コロナ禍が落ち着きを見せる中で、イベントの実施回数を増加させた。
- ・職員によるイベントを多数実施するとともに、「初夏の野鳥観察会」、「春の草木染め体験」など、より専門的な知識が必要なイベントは、外部講師や団体と協力して実施した。月一回定例で行った「季節の自然観察会」では、三重県環境学習情報センター、自然観察指導員三重連絡会と共催し、自然体験の指導を志す人たちに対して実践や交流の場を提供することができた。
- ・地域の小学校、保育園、幼稚園、学童、福祉団体などの依頼により、クラフト体験や自然観察会などのプログラムを実施した。
- ・感染症対策について、参加者には事前に対策方法を告知するとともに、イベントで感染者が発生した際、迅速な対応ができるよう全参加者の連絡先を確認し、当日は、朝の検温、手指の消毒、マスクの着用を徹底した。また実施中も密になる状況を作り出さないよう留意した。

ウ) 県民の森内の自然情報やイベント情報の提供に関する業務

- ・モバイル端末でも見やすくしたウェブサイトにより、より広報力のある情報発信を心掛けるとともに、タイムリーに情報を提供できるSNSを利用し、イベント報告や開花状況、自然の様子などの情報提供を行った。ウェブサイトとSNSをあわせて300回の更新を行った。Facebookでの評価となる「いいね!」の数は1,304件となった。
- ・CTY-FM「よっかいちかふえ」での毎月イベント告知や、子育て情報誌「きらきら」へのイベント告知掲載など、広報のためにメディアを積極的に利用した。太陽の丘のササユリ、つどいの広場のフウの紅葉などはマスコミに取り上げられ、多くの人を訪れた。
- ・イベント参加者やウェブサイトからの希望者に対して、イベント情報を中心とするメールマガジンを月1~2回程度配信した。令和4年度は19回配信を行い、登録アドレスは1,493件と増加した。
- ・自然学習展示館にて季節の自然の見所を紹介する掲示を行うとともに、ウォーキングマップを2ヶ月毎に更新し、利用者が現地に行って自然を楽しめるよう案内を行った。

② 施設及び設備の維持管理及び修繕に関する業務

- ・ 植物管理、清掃管理、日常点検、遊具・建物施設などの定期点検、巡回警備、修繕業務などにより、施設を清潔かつ快適に維持し、機能を適正に保持するとともに、異常個所の早期発見により、来園者の安全な利用を図れるよう努めた。
- ・ 植栽木の管理については、適正な時期に剪定を行い良好な景観を維持することができた。森林内の植生管理については、大径木の枯損木が多くなっているため、危険のないよう早めに伐倒処理を行った。さらに植栽木から繁殖し自生の植生を圧迫している外来種を間引き、森林環境の回復、保全に努めた。また生産の森においては、「認定特定非営利活動法人森林の風」に委託して間伐を行い、適正な人工林の維持に努めた。
- ・ 建設から40年近くを経ているために多くの場所で老朽化が進んでおり、今後も修繕する必要がある箇所が増加すると思われる。専門的な技術が必要となるアスレチック遊具の修繕については業者委託し、各所の階段や看板など大規模でない修繕は職員で行った。
- ・ 今後補修が必要な個所として、未修繕のアスレチック遊具、遊歩道の階段や手摺、藤棚、あさけの流れにかかる橋などがある。老朽化が進んでいるため、危険がないか注視し、必要に応じて使用中止などの措置を行った。
- ・ 資格を持つ職員により有害駆除を行い、シカ2頭を駆除した。

③ 県施策への配慮に関する業務

- ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延により、三重県より「新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた三重県指針」が出され、各時期において更新されたが、その都度、適切に対応した。
- ・ 「みえ生物多様性推進プラン」に沿って、希少動植物の保護・調査や外来生物の駆除などを行い、生物多様性が保全された森林公園をめざした。桑名高校・四日市西高校の生物部が主導して行っているフクロウ保護プロジェクトにも引き続き協力し、園内に設置した巣箱からは2羽のフクロウを巣立たせることができた。
- ・ 「みえ森林教育ステーション」では県産材でできた遊具や木のおもちゃの提供とともに、季節の自然に合わせた展示を行い、楽しみながら森林や木に親しんでもらえる運営を行った。
- ・ 3月には三重県主催の「みんなで森づくり県民の森 de 植樹祭」が開催され、クマノザクラをはじめとして自然体験にも役立つ自生の樹種の植樹を行った。あわせて自然観察会を実施し、約60人が参加した。
- ・ 「森林とふれあう自然公園環境整備事業」により、イベント参加者と共に木製アスレチックを補修した。部材には県民の森の間伐材を利用することで、森林教育として好評だった。

④ 情報公開・個人情報保護に関する業務

- ・ 「三重県民の森の管理に関する情報公開実施要領」を策定し、対応した。
- 令和4年度請求件数：0件

⑤ その他の業務

- ・ 令和4年度における事故・事件は、5月に自販機の破壊盗難、12月に伐倒枝との接触事故、1月に施設内で自殺があり、3件となった。

(2) 施設の利用状況

公園施設全体の利用者数	成果目標	令和3年度実績	令和4年度実績	達成率
	133,000人	182,833人	183,139人	137.7%
顧客満足度	成果目標	令和3年度実績	令和4年度実績	達成率
① 施設利用者	80%	87.4%	89.6%	112.0%
② 自然体験型イベント参加者	92%	96.8%	96.2%	104.6%

2 利用料金の収入の実績

指定管理をしている箇所で利用料金を徴収している箇所はなし。

3 管理業務に関する経費の収支状況

(単位:円)

	収入の部		支出の部		
	R 3	R 4		R 3	R 4
指定管理料	24,108,000	24,108,000	事業費	2,764,966	2,646,394
利用料金収入	0	0	管理費	24,466,523	22,721,949
その他の収入	1,189,392	1,309,534	その他の支出	0	0
合計 (a)	25,297,392	25,417,534	合計 (b)	27,231,489	25,368,343
収支差額 (a)-(b)	△1,934,097	△49,191			

※参考

利用料金減免額	—
---------	---

4 成果目標とその実績

成果目標	施設利用者数	施設利用者の満足度	自然体験型イベント参加者の満足度
成果目標	133,000人	80%	92%
成果目標に対する実績	183,139人	89.6%	96.2%
今後の取組方針	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数について 令和3年度を超え、過去最高の利用者数となった。コロナ禍は落ち着きつつあるものの、閉鎖的な環境を避ける傾向が続いている結果と思われる。例年人出の多い初夏や秋の行楽シーズンはもとより、夏や冬といった屋外での活動を控える時期でも、広場などでテントを張って遊ぶ利用者が見られ、屋外でのニーズが高いことがうかがえる。こうした状況のなかで利用したくなる公園として選ばれているのは、普段の管理運営によるものと考え。今後も公園のニーズは高いと思われるため、新しい生活様式に則ったうえでの利用を促進していきたい。また「みえ森林教育ステーション」の利用者による増加もあるので、広く広報を行っていく。 ・施設利用者の満足度について 自然管理については満足度が高く、森林部分においては自生の植生を保護し、公園部分については植栽木を適切に管理するなど、良好な景観の維持に努めた結果だと考える。一方、施設管理については満足度が低い傾向が見られ、施設の老朽化などが影響していると考えられるため、今後も補修、改修を進めていきたい。 ・イベントについて コロナ禍の落ち着きに合わせ、イベント実施回数を増やしたことで、より多くの来園者に自然体験を楽しんでいただくことができた。感染症のリスクの少ない屋外での自然体験については、観察会の依頼や、参加者数の増加など、ニーズが高まっている様子がうかがえる。今後も感染症対策を徹底した上で、さまざまな形で自然体験を提供していく。 5月に行った「オニヤンマの羽化を見てみよう」は予約不要で、現地に来た人に随時スタッフがガイドを行うという形式とした。一斉に集合しないことで、人が集中することなく多くの人に自然を体験してもらうことができ、こうした現地での自然ガイド形式によるイベントも今後検討していきたい。 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境について 園内の植栽木に関して適正な管理を行っていくとともに、森林部においては外来の植物を間引くなど、本来の自然植生を維持する森林管理を行った。また、キンランのマーキング調査やフクロウの保護プロジェクトなど希少な動植物の保護管理活動は引き続き継続する。 ・セルフガイドの充実 来園者が散策しながら自ら自然のことを学ぶことができるセルフガイドシステムの効果的な運用に努める。季節で変化する公園の見所に合わせ、自然の美しさや面白さ、不思議さに気づききっかけとなるような内容とする。また、非対面で楽しめるウォークラリーの開催のほか、公園を楽しむツールとして、物品の貸出なども検討を行う。 ・ボランティアについて ボランティアグループであるモリメイトでは、自然環境グループを立ち上げたことで、管理作業的な活動に加え、自然観察の記録やボランティアガイドの実施など、活動の幅が広がった。また新規加入により人数が増加しただけではなく、親子連れや若年層など幅広い年代のメンバーが加入することで、活動が活性化された。今後も楽しみながら公園の管理につながる活動を行っていく。
--	--

5 管理業務に関する自己評価

評価の項目	評価		コメント
	R3	R4	
1 管理業務の実施状況	B	B	普段の清掃、適切な植物管理、日々の巡回による異常箇所早期発見など、施設の適切な維持管理、環境の美化に努めることができたが、まだ修繕の行われていない箇所についてはより注意していく必要がある。
2 施設の利用状況	A	A	年間利用者数は過去最高となり、A評価基準を上回る137.7%となった。
3 成果目標及びその実績	A	A	施設満足度、自然体験型イベントの満足度ともに目標を上回ることができた。

※評価の項目「1」の評価 :

「A」 → 業務計画を順調に実施し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 業務計画を順調に実施している。
「C」 → 業務計画を十分には実施できていない。
「D」 → 業務計画の実施に向けて、大きな改善を要する。

※評価の項目「2」「3」の評価 :

「A」 → 当初の目標を達成し、特に優れた実績を上げている。
「B」 → 当初の目標を達成している。
「C」 → 当初の目標を十分には達成できていない。
「D」 → 当初の目標を達成できず、大きな改善を要する。

総括的な評価	<p>令和3年度に引き続き、過去最高の来園者数を記録した。今後も自然体験イベントについても開催数を増やすことができると考える。また感染リスクの低い屋外での活動に対する意識は引き続き高いと思われることから、自然や森林に親しめる場所として活用してもらえるように取り組む。</p> <p>「みえ森林教育ステーション」については、より若い世代の親子連れの利用が多く、新しい公園利用の可能性があると考える。安全・安心に利用してもらえるような運営に取り組むとともに、県民の森の魅力である広々とした森林など既存の施設と組み合わせることで、効果的な森林教育や体験が行えるようなプログラムやキットの開発につなげていく。</p>
--------	--